

墨川亭雪磨作
漢齋英泉画

秋長
新心
於
守



^13
3888
1

新心
於
守

文政戊子春新版
正榮堂川口正藏梓

秋長
新心
於
守



^13
3888
2

秋長
新心
於
守



墨川亭雪磨作
溪齋英泉画

新本
新本
新本



新本
新本
新本

^13
3888
1



御婢子齋桂乃
前編
子春
新鐫

墨川亭雪麿作 版元
溪齋英泉画 川口正藏梓

伊勢の御下止と野宮より帰らせぬ奇宮の嬌態彼信實繪巻に
馬はれ伊勢の相宿の石部とやら木枕を信濃屋の辨慧桂川小
浮名を流しれは為家の河書に名高是は洋瑠理の正本に遺て歌舞妓乃
種と形容もまご幼川鮎の御母子育の意路小はゆもゆれ袖几帳若
戸隠れ神招ハ誰と森待の月れ物止鳥のあゝとあゝの長さん外は
あゝ無物次も云ふるは楚辞は梅子万葉は菊なり昔の冊子は序有
とねし今の草紙は序無あり作者は智ある趣向する詮方なり不
学を掩ひ唐の俗語を切抜たり不吞込る和語を連ねる一向盲家と喰
骨を折く喰ても其哺と喰りぬ意味分らむ意味が鮮く喰と喰
むらぬ心の中にも哲し讀も如の草双紙はまゝ及夏を序めりくと書目候
文政丁亥春編成
全 戊子春茂販
墨川亭雪麿述

門へ13
3888
信

信濃屋
お半
おま
おん

信濃屋
お半
おま
おん



信濃屋
お半
おま
おん

信濃屋
お半
おま
おん

墨川亭



文政十三年正月十日

信濃屋
お半
おま
おん



神様
 多様
 居る
 乃
 軽
 聖磨

蝶右門
 女房於結
 寄生虫
 大大夫
 於北



目乃
 悪棍
 銀杏
 仁太

犬太夫大夫若黨
 四五助

吹く後
花ちり
内一と
浮院たのむ
おん様結
ひき
木村
吾平呂

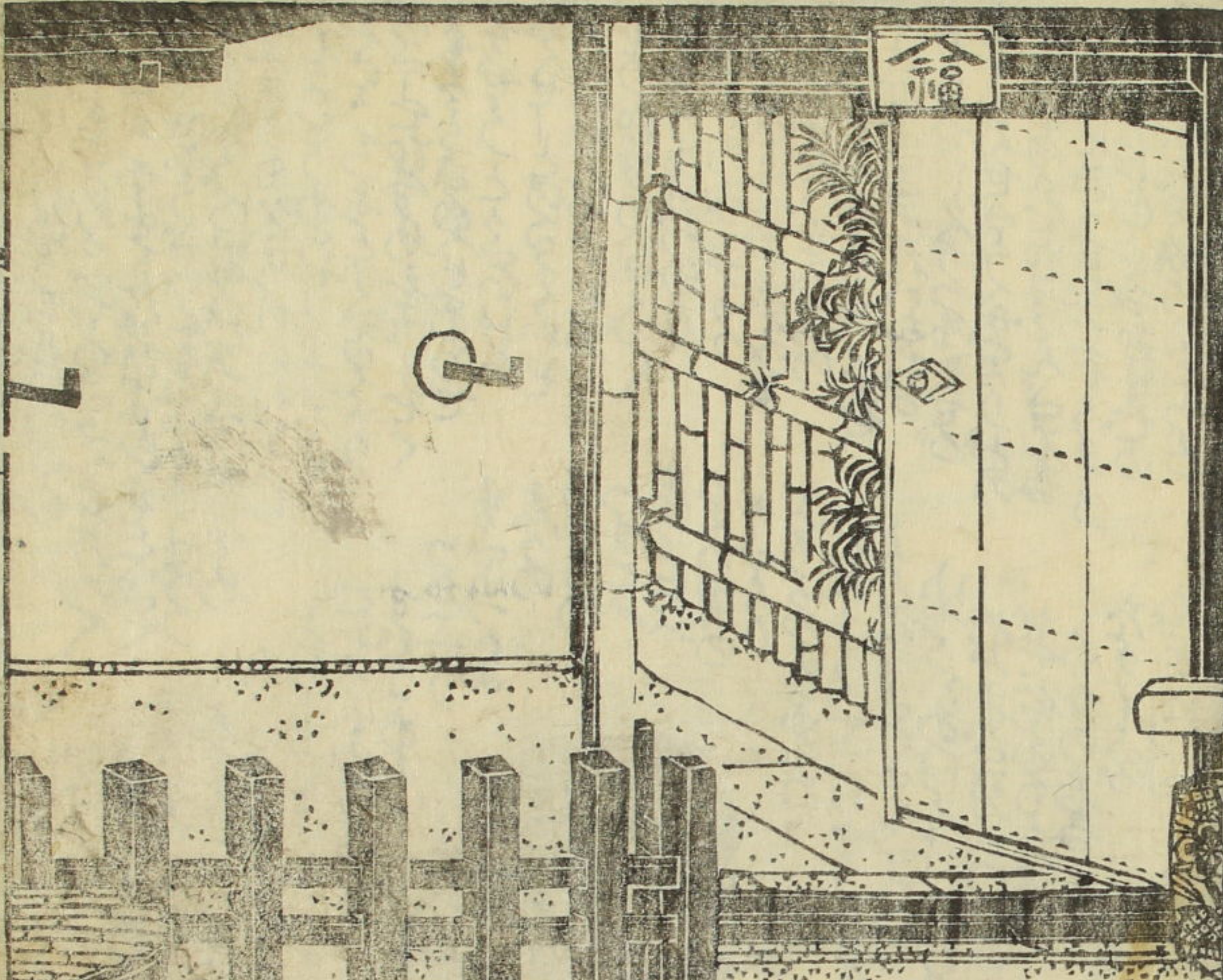


於半母於石

寄生
虫の母
千種

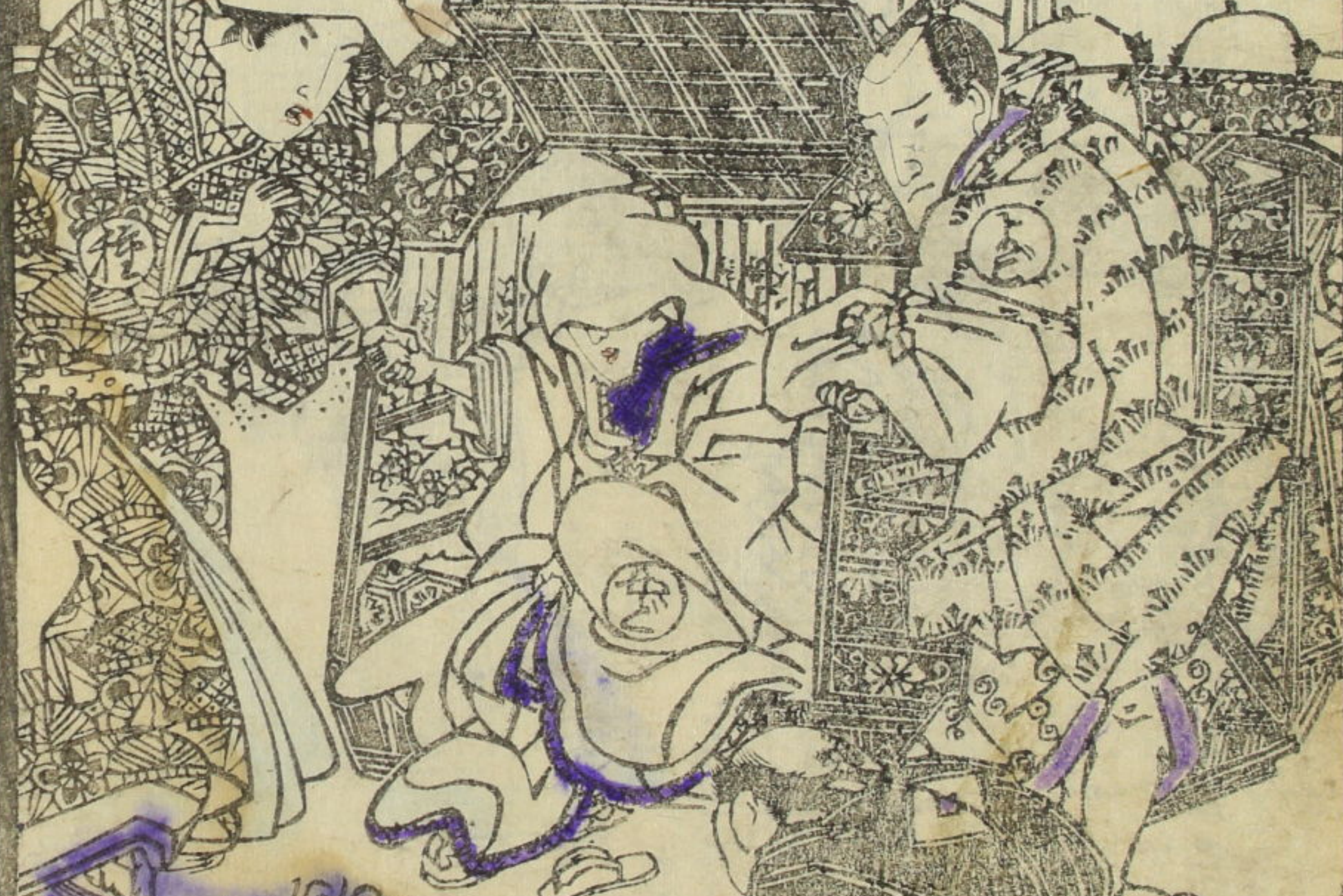


山名の家来
片岡幸九工門



福とありしは...
 中世なげの内...
 ありとも...
 ありとも...
 ありとも...
 ありとも...

福とありしは...
 ありとも...
 ありとも...
 ありとも...
 ありとも...



ありとも...
 ありとも...
 ありとも...
 ありとも...
 ありとも...

上野の山王様... 御座り申す... 御座り申す... 御座り申す...

山王様... 御座り申す... 御座り申す... 御座り申す...



あまのこゝろ... 御座り申す...

あまのこゝろ... 御座り申す... 御座り申す...

卷之三

一ノ巻の山名は...
 二ノ巻の山名は...
 三ノ巻の山名は...
 四ノ巻の山名は...
 五ノ巻の山名は...
 六ノ巻の山名は...
 七ノ巻の山名は...
 八ノ巻の山名は...
 九ノ巻の山名は...
 十ノ巻の山名は...

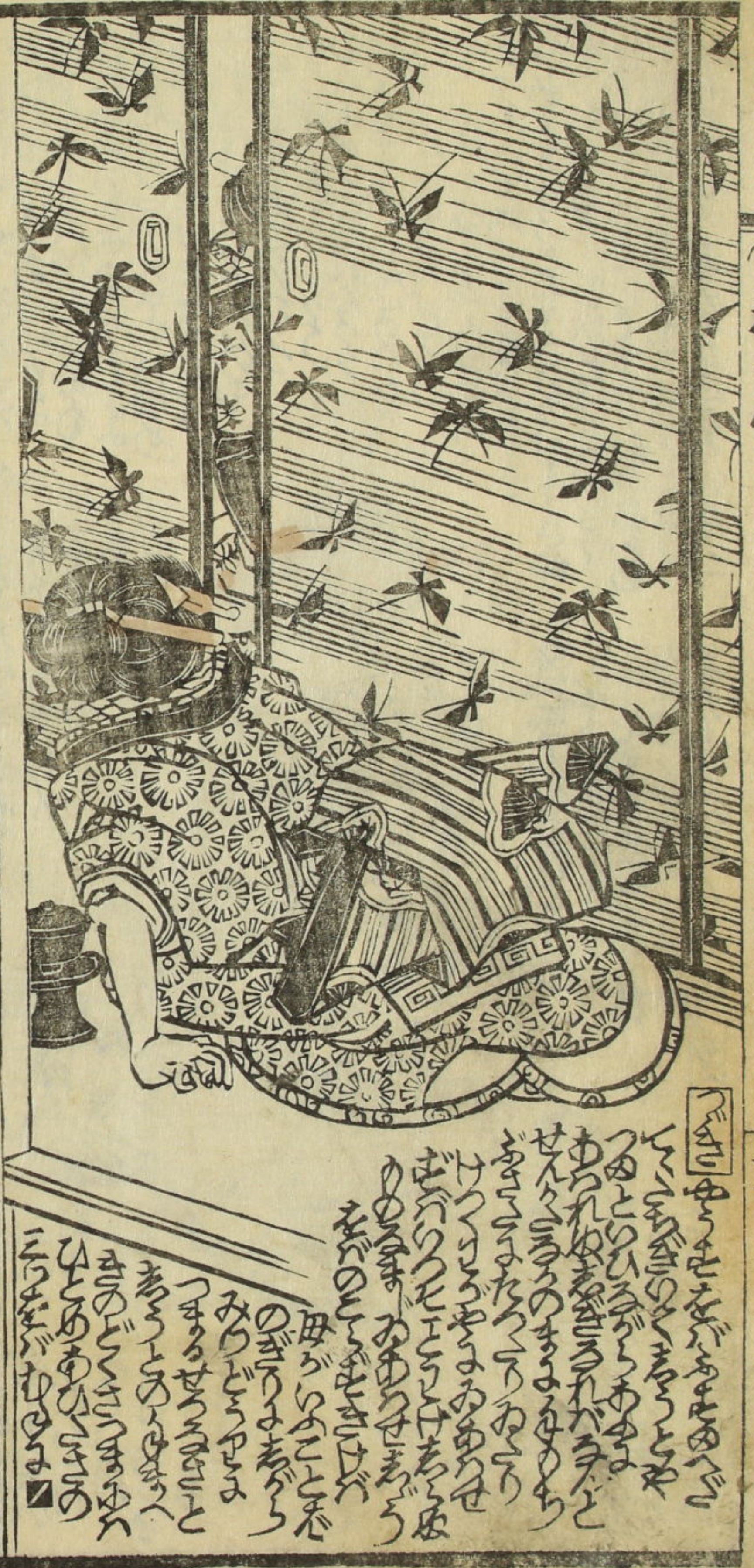


一ノ巻の山名は...
 二ノ巻の山名は...
 三ノ巻の山名は...
 四ノ巻の山名は...
 五ノ巻の山名は...
 六ノ巻の山名は...
 七ノ巻の山名は...
 八ノ巻の山名は...
 九ノ巻の山名は...
 十ノ巻の山名は...

一ノ巻の山名は...
 二ノ巻の山名は...
 三ノ巻の山名は...
 四ノ巻の山名は...
 五ノ巻の山名は...
 六ノ巻の山名は...
 七ノ巻の山名は...
 八ノ巻の山名は...
 九ノ巻の山名は...
 十ノ巻の山名は...



一ノ巻の山名は...
 二ノ巻の山名は...
 三ノ巻の山名は...
 四ノ巻の山名は...
 五ノ巻の山名は...
 六ノ巻の山名は...
 七ノ巻の山名は...
 八ノ巻の山名は...
 九ノ巻の山名は...
 十ノ巻の山名は...



此の香は美艷仙女香と云ふ
 江戸赤坂一軒の町屋
 新及の西の西の町屋

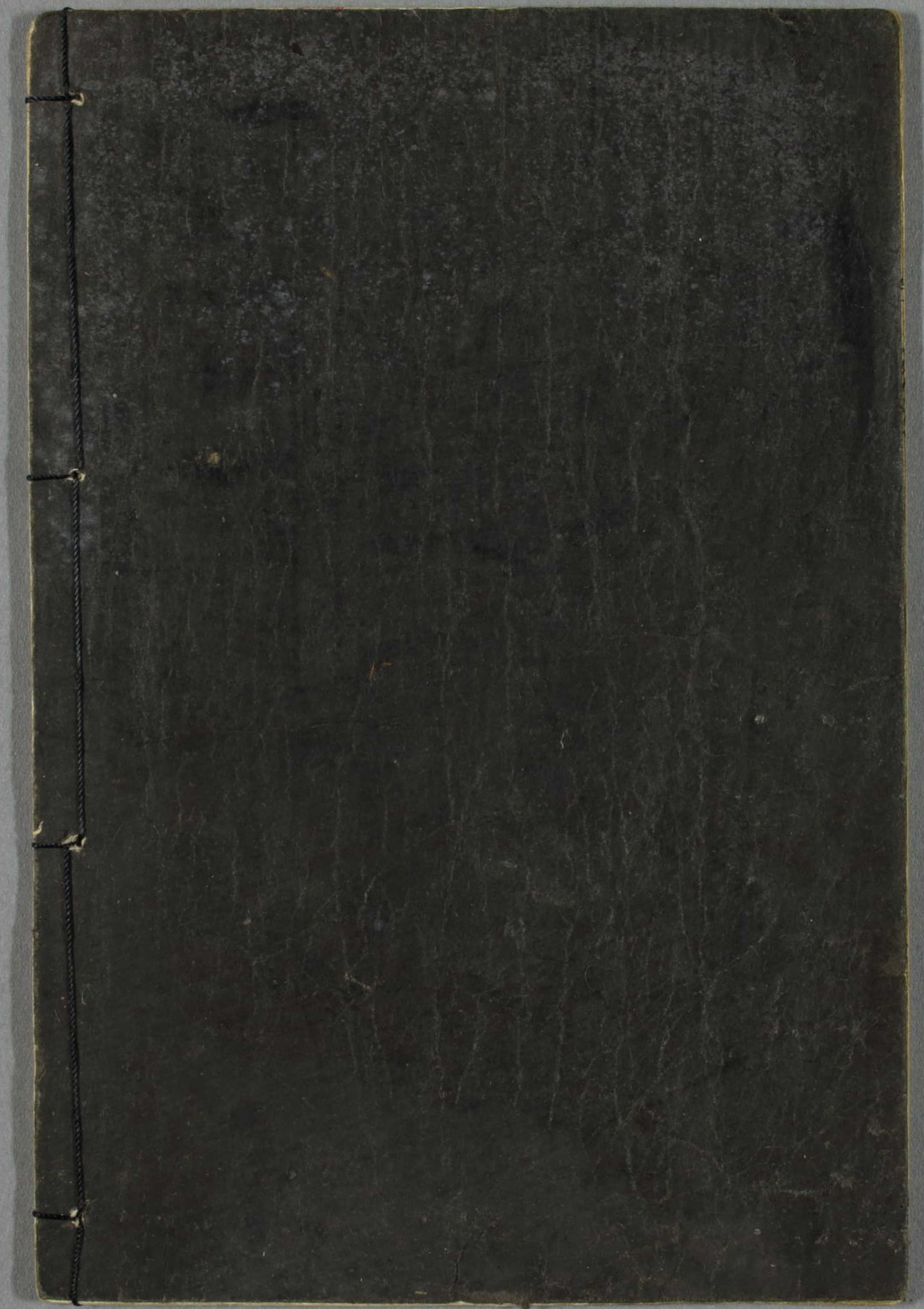


坂本氏製

雪麿作

英泉画

此の香は美艷仙女香と云ふ
 江戸赤坂一軒の町屋
 新及の西の西の町屋
 此の香は美艷仙女香と云ふ
 江戸赤坂一軒の町屋
 新及の西の西の町屋



文政戊子春新版
正榮堂川口正藏梓

清 齋 川
婢 林 鮎



板 正 川

^13
3888
2



卷之四



桂 結

川 浮

浮 元

全六冊

雪 麿

他

華 泉 画

子 春 新 板 正 栄 堂 上 梓



Vertical text in the upper left corner, likely a title or introductory text.

Vertical text on the left side of the scene, possibly a dialogue or narrative element.

Large block of vertical text in the upper right quadrant of the scene, likely a main narrative or dialogue.

Vertical text at the bottom of the scene, possibly a concluding text or a signature.



Vertical text in the upper left corner of the scene, likely a title or introductory text.

Large block of vertical text in the upper right quadrant of the scene, likely a main narrative or dialogue.

Vertical text at the bottom of the scene, possibly a concluding text or a signature.



お茶屋の女

お茶屋の女... (Vertical text block at the top left of the right page)



お茶屋の女... (Vertical text block at the bottom of the right page)

お茶屋の女... (Vertical text block at the top of the left page)



お茶屋の女... (Vertical text block at the bottom of the left page)



福帳
出候
御見

まのうらみト下よる女
おのれをいふ
おのれをいふ
おのれをいふ

おのれをいふ
おのれをいふ
おのれをいふ
おのれをいふ

おのれをいふ
おのれをいふ
おのれをいふ
おのれをいふ

おのれをいふ
おのれをいふ
おのれをいふ
おのれをいふ

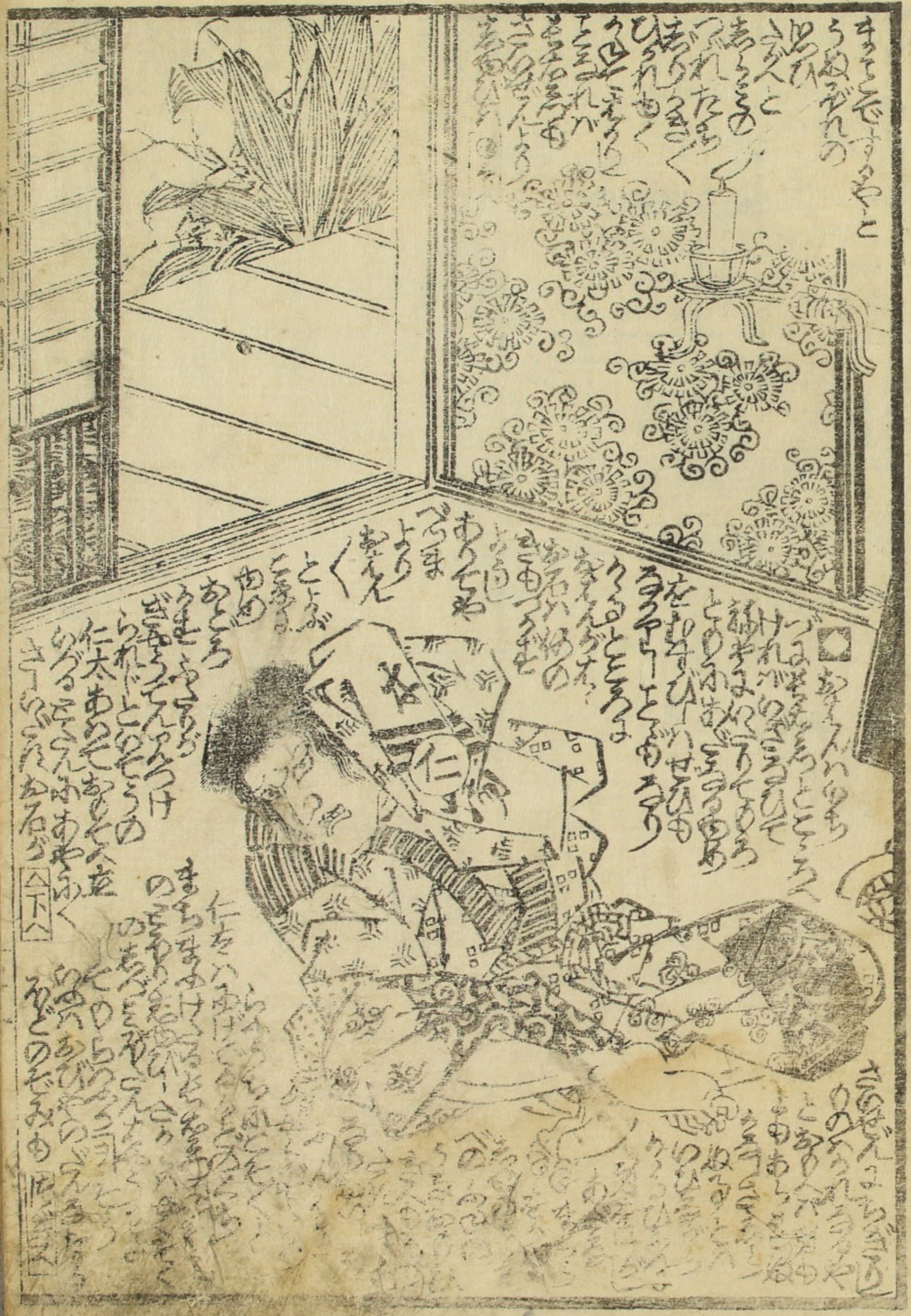


長

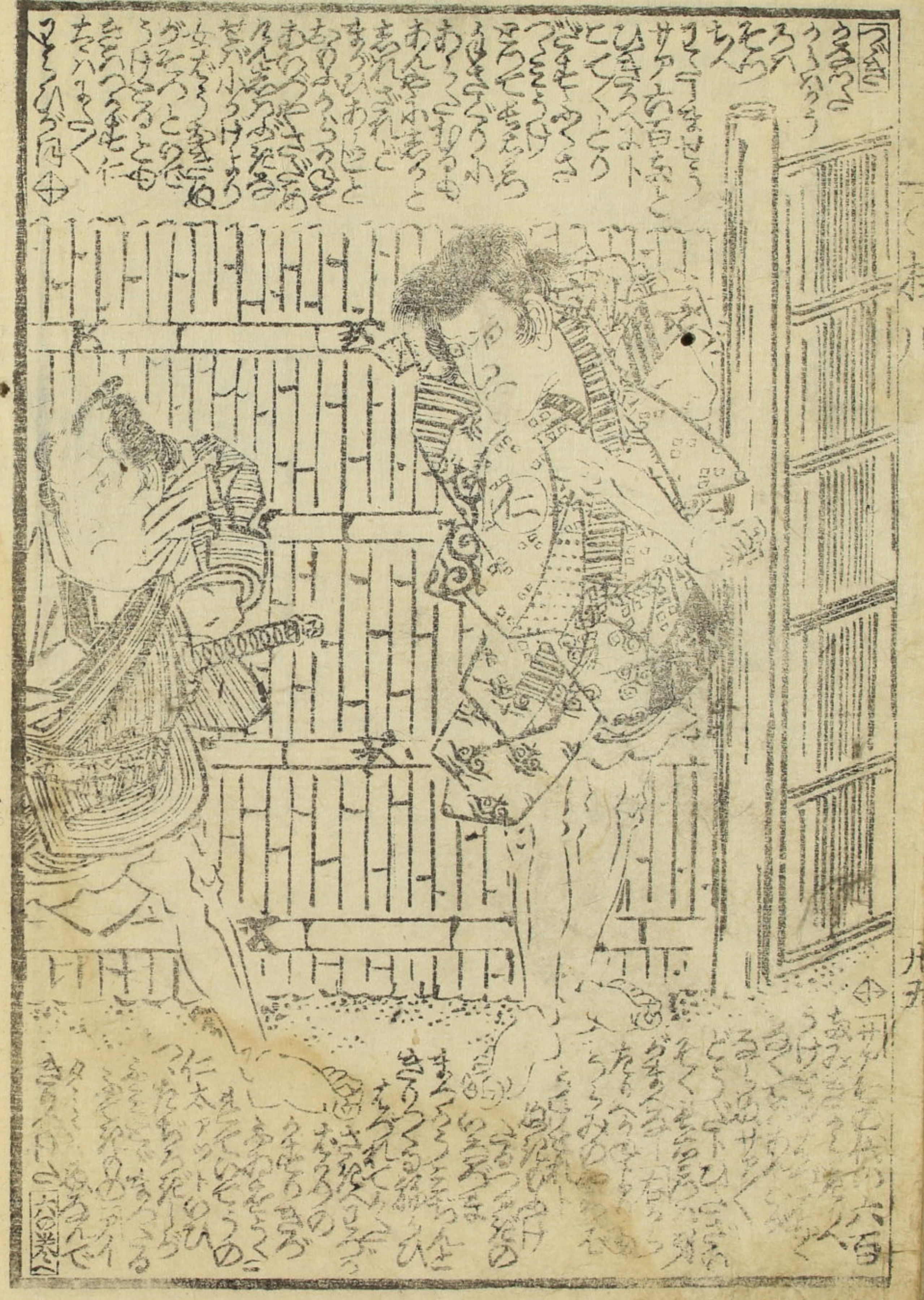
おのれをいふ
おのれをいふ
おのれをいふ
おのれをいふ

おのれをいふ
おのれをいふ
おのれをいふ
おのれをいふ

おのれをいふ
おのれをいふ
おのれをいふ
おのれをいふ



卷之六





茶

此本論會問屋

五卷

凡五卷

美體山香

西天傘

六卷

凡六卷

論賦子育卦論

六卷

凡六卷

昔語忠義

十卷

凡十卷

蓋年

六卷

凡六卷



茶新

